

**外部評価の結果**

**事業所名** グループホーム 小鳥の森の家

日付 平成18年3月31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験14年  
評価調査員 在宅介護経験9年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

職員用トイレに「怒(思いやり)」という文字が掲げられている。「己の欲せざるところを人に施すなかれ」という孔子の教えで、「介護の原点とある。代表者の思いを職員に示したもので、ホーム全体にこの思いが貫かれている。

利用者は全体的に穏やかで、互いに思いやりにあふれ和気あいあいとした感じである。多少のトラブルも職員の「笑顔になるよう心掛けよう」とする努力が窺える。

職員が個性豊かで芸達者な方が多いせいか、活力あふれる生活感のある雰囲気がある。

食事は、このホームで作ったものや差し入れの無農薬作りの旬の野菜をふんだんに使った、昔ながらの家庭料理がこのホームの売りでもある。「美味しい食事が何より…」と喜ぶ利用者の話が納得できる。

家族の訪問も多く、「家族会」への参加も親族が複数で来てくれたり、お友達や知人が加わるという点も他では余り見られない素晴らしい所だろう。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

グループホーム全体の生活の様子や近隣の人々との交流の場を「ホームだより」にして家族や地域に伝え、個々の様子はそれぞれの家族に伝えるような取り組みを考えてみてはどうでしょう。このような記録を作ることがグループホームの歴史の歩みとなって残っていく。

チームケアを進める上で、各職員の意識を引き上げる事や取り組みの統一を図る為に、会議の持ち方を工夫する段階に来ているように思う。

認知症ケアが大きな社会的課題となってきている中で、地域でのグループホームの存在は大きい。このような前向きなホームの実績を踏まえて公民館などで高齢者の交流に取り組むことも考えられませんか。

**I 運営理念**

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「戦中・戦後をたくましく生き抜いて、今の日本を築きあげてくれた方々に感謝しなければならない。こんな思いを次の世代に引き継いで行くのが、自分の勤め」と熱く語る代表者の意気込みが、このホームの根底に流れている。</p> <p>それが、一軒の家の中で親子関係のような雰囲気を築いている。職員さんたちの明るい個性が、このホームの空気を明るくしているのが嬉しい。</p>		

**生活空間づくり**

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>ホームの外周には野菜や花が植えられており、リビングや居室にも花や植栽がたくさん飾られている。三徳園は日常的な散歩コース。斜め目前に中学校があり、一寸外に出ると元気な生徒達の活動が眺められる。</p> <p>利用者のリビングの居場所についても、職員が夫々の折り合い等を配慮しながら座り所の変更を促すなどの誘導をしている。</p>		

**ケアサービス**

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

**III ケアサービス(つづき)**

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>個々人の今持っている力、出来る事をしっかりと見極めて、ホームでの生活を充実したものにしてしようとしている。職員の明るい声かけに促されて、利用者が夫々に出来る仕事に向き合っている気風が出来ている。</p> <p>穏やかな老夫婦の利用者の醸し出すハーモニーが、利用者が仲良く生活出来る良い空気をもたらしているようだ。お客さんに歌わせる術も心得たこの主人の元教頭先生の褒め言葉には感服させられた。</p> <p>また、家族会への誘いの便りを書ける人には本人に書いてもらったり、電話をしてもらうなどの支援が素晴らしい。</p>		

**IV 運営体制**

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>ケアの面から見ると、個別の介護記録に管理者独自の工夫が見られ、見やすく、情報を共有しやすくなっている。独自の符号を駆使したバイトルや生活記録に加えて、会話や行動中心のメンタル面の記述が、このホームの良いケアの基本になっていると言える。</p> <p>利用者も年々重度化していくので、きめ細かいアセスメントを積み重ね、一人ひとりの介護計画を実践して行って欲しい。</p> <p>次に地域との連携面で見ると、一軒の家として、色々な人と近所付き合いをしている。堅苦しい付き合いでなく、気軽にグループホームを訪れてくれたり、近所の中学校の父兄が校庭で競技をしている子供達を見ている人に「ちょっとお茶でも」といってさりげなく招き入れる接待をしている。</p> <p>消防団の人が「変わった事ないか」と覗いてくれたり、近所の人が野菜や花を届けに来てくれたり、近隣の人々との付き合いのグループホームである。</p>		